

白神森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 津軽森林管理署
所在地	青森県(西津軽郡鮎ヶ沢町、深浦町、中津軽郡西目屋村)
面積	12,627.09ha(全体16,971.24ha)
設定年	平成2年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	日本海型の典型的なブナ林を主体とする原生的な天然林を保存することにより、白神山地区における森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。



保護林内の状況



ブナの高木

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査及び森林概況調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影及び痕跡調査を、鳥類調査はスポットセンサス調査を実施した。
結果概要	ブナを優占とした広葉樹の成熟林で、天然更新も期待できる状況であり、おおむね健全な状況が確認された。哺乳類調査では大きな変化は認められなかったが、自動撮影カメラにて前回調査で未確認だったニホンジカ(亜成獣の雄)が1回撮影された。到達困難な調査プロットがあったため、継続的にモニタリングを実施できる代替地点の設置を検討した。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

早池峰山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県（宮古市）
面積	4,120.08ha(全体8,144.71ha)
設定年	平成5年（設定）
保護林の概要 （設定目的）	早池峰山周辺は基岩の違いによる植物相の対照が顕著で、原生的な天然林を保存することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資することを目的とする。



保護林の景観



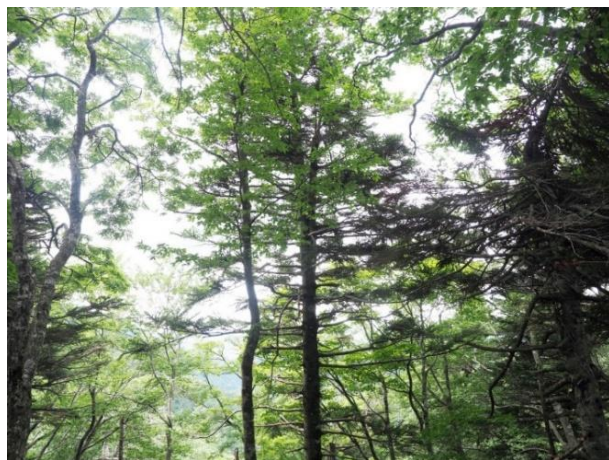
プロットNo.1

モニタリング調査概要

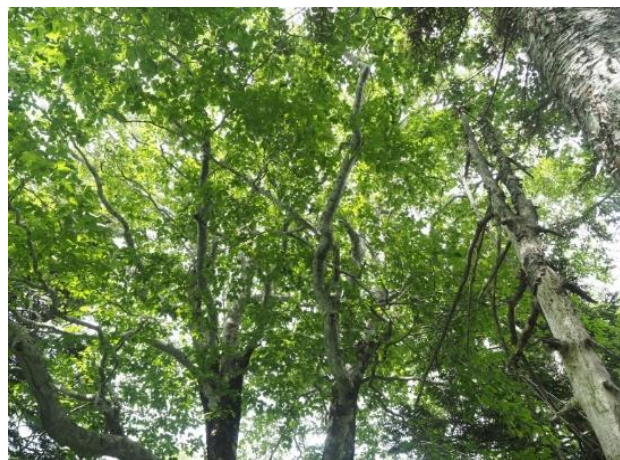
実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等）、動物調査（哺乳類及び鳥類）、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査及び森林概況調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影及び痕跡調査を、鳥類調査はスポットセンサス調査を実施した。
結果概要	ブナやヒノキアスナロを主体とした森林で、おおむね健全な状況が確認されたが、大径木の倒伏により林冠ギャップが生じた。至るところにニホンジカの痕跡が見られ、食害が木本植物から草本植物で確認された。自動撮影カメラによる調査結果において、ニホンジカの個体数の増加及び密度が高くなっていることが示唆された。引き続き関係機関と連携して、ニホンジカ対策に取り組んでいく。

八甲田山生物群集保存林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 青森森林管理署
所在地	青森県(青森市)
面積	1395.09ha
設定年	平成元年、平成8年(拡大・再編)、29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	八甲田山地域の多様な生態系を構成する全ての生物種について、潜在的なものを含めて遺伝資源を安定的、恒久的に保存し、今後の利用に資するため。



保護林内の状況



林内のブナ

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査及び森林概況調査として林内に調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。哺乳類調査では自動撮影及び痕跡調査を、鳥類調査はスポットセンサス調査を実施した。
結果概要	オオシラビソとブナを優占とした森林で、おおむね健全な状況が確認された。下層植生においても、大きな変化は認められなかった。オオシラビソにおいて、風雪害による被害が一部で継続して確認されているため、引き続き注視していく。哺乳類調査ではカモシカ等の5科5種が確認され、鳥類調査の確認種は32種であった。

権現アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県（下閉伊郡岩泉町）
面積	6.75ha
設定年	昭和62年（設定）、平成29年（再編）
保護林の概要 （設定目的）	岩手県岩泉町の小本川支流三田貝川上流に位置する、アカマツを主とする天然壮齢林。このアカマツの遺伝資源の保存を目的とする。



保護林内の状況



アカマツ大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等）、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本林分はアカマツの生立木は健全であるが、生育数が微減している状況が示唆された。 ・本保護林は、現在は安定して維持されているといえるが、その他広葉樹の生長が確認されている状況を鑑みると、今後はアカマツ林から広葉樹林への遷移が進むと考えられる。 ・今後もモニタリングを実施し、森林の状況に留意していくことが望ましい。

十二神山ミズメ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県(宮古市)
面積	37.16ha
設定年	昭和62年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	重茂川上流に位置する、多種の落葉広葉樹からなる天然壮齢林。トチノキ、サワグルミ、カツラ、ブナ、ミズメ、ハリギリの遺伝資源の保存を目的とする。



保護林内の状況



トチノキ大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。 ・胸高断面積割合の約5割をトチノキが占める結果となった。生育本数ではサワグルミが前回に引き続き多く確認されており、林相に大きな変化はみられなかった。下層植生では低木層が消失し、草本層も大幅に減少した。 ・ニホンジカの食害による森林生態系や保護対象樹種への影響が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を検討する。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

早池峰山ウダイカンバ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県(宮古市)
面積	5.31ha
設定年	昭和62年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	閉伊川支流御山川上流に位置する、ウダイカンバを主とする天然幼齢林。このウダイカンバの遺伝資源の保存を目的とする。



保護林内の状況



ウダイカンバの高木

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。 ・森林調査:森林生態系多様性基礎調査業務により実施。ウダイカンバの生立木は胸高断面積の増加がみられ、おおむね健全に生育していた。下層植生ではチシマザサが消失した。 ・ニホンジカの食害による森林生態系や保護対象樹種への影響が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を検討する。

津軽石川イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県(下閉伊郡山田町)
面積	10.00ha
設定年	昭和62年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	イヌブナを主とする落葉広葉樹からなる成育良好な天然壮齢林。このイヌブナの遺伝資源の保護。この流域はイヌブナの北限とされているため、保護林を設定し自然推移を観察して学術上の考証に資することを目的とする。



保護林内の状況



イヌブナの大径木・ひこばえ

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。 ・森林調査: 胸高断面積割合の8割以上をイヌブナが占めたが、胸高断面積合計及び生育本数は減少した。下層植生の植被率が大幅に減少した。 ・ニホンジカの食害による森林生態系や保護対象樹種への影響が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を検討する。

櫃取湿原希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 三陸北部森林管理署
所在地	岩手県(下閉伊郡岩泉町)
面積	34.63ha
設定年	昭和48年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	岩手県岩泉町の小本川支流大川源流部に位置するこの一帯は湿原をなし、ハクサンシャクナゲ、ミズバショウが群生し、湿原特有の景観をなしていることから、これらの群落を保護することを目的とする。



保護林内の状況



食害を受けたミズバショウ

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査時で優占種であったダケカンバの胸高断面積が大きく減少した一方でシロヤナギが増加した。 ・前回調査時は良好な湿原環境が保たれていたが、今回調査では、湿原の一部の乾燥化の可能性と哺乳類による食害が明らかとなった。湿生植物群落の継続性について留意していく必要がある。 ・ニホンジカの食害による森林生態系や湿原環境への影響が懸念されるため、必要に応じて適切な対策を検討する。

朝日山地森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(長井市、西置賜郡小国町)
面積	9,886.23ha
設定年	平成15年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	朝日山地は、日本海側型東北(雪国)気候区に属する隆起山地であり、大朝日岳を主峰とする主稜線といくつかの支稜は非対称山稜を呈している。この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られるなど、変化に富んだ種々の生態系が展開し、多様な動植物が生息・生育している。これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として設定された。



保護林内の状況



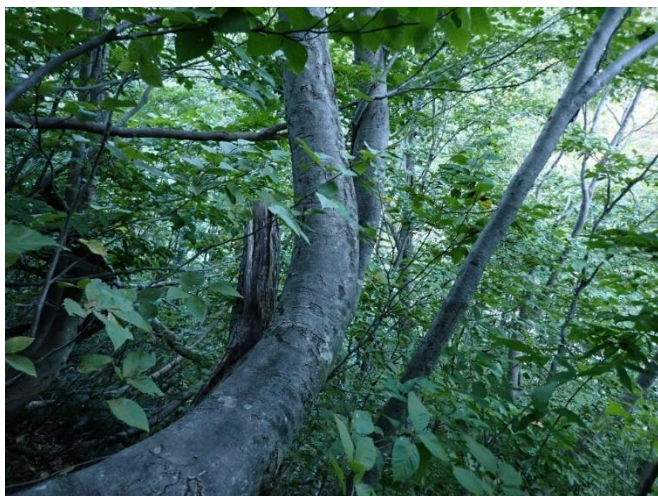
下層植生N区

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナを主要樹種とした豪雪地特有の落葉広葉樹林である。主要樹種の緩やかな成長が見られた。 ・ブナは大径木の割合が高く、小径の後継樹は見られず、稚樹や実生はわずかに確認されたのみであった。 ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

飯豊山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(西置賜郡小国町、飯豊町)
面積	11,101.69ha
設定年	平成4年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	飯豊連峰の中心部にあって、雄大で起伏に富んだ山岳地帯となっており、全域が磐梯朝日国立公園に含まれている。標高400～2,000mの高山帯までの垂直的な森林帯を有し、亜高山落葉広葉樹林、ハイマツ林などの原生的で多様な森林が見られ、動植物相も多様性に富んでいる。 これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。



保護林内の状況



ブナの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主要樹種のブナで林冠を構成し、多雪の影響を受けた森林である。 ・ブナの樹高は10m前後であり亜高木層に留まっている他、大半の樹木が斜立や根曲となるなど雪圧の影響を強く受けた林分である。 ・ブナの成長が見られ、稚樹や実生が多数確認された。 ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

吾妻山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(米沢市)
面積	3,890.31ha
設定年	平成7年(設定)
保護林の概要 (設定目的)	吾妻連峰一帯のオオシラビソを主とする原生的な森林地帯のほか、山地湿原、雪田湿原、瀑布等変化に富んだ景観を有し、さらに、本地域を南限または北限とする植物の分布や原生的な森林に生息する貴重な動物相などが見られる。これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的とする。



保護林内の状況



ブナの実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナを主要樹種とした落葉広葉樹林である。 ・ブナの成長が見られ、前回調査では後継樹は見られないとされたが、小径の個体や実生がプロット内で確認された。 ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

柵峰・飯森山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(米沢市、西置賜郡飯豊町)
面積	1,043.30ha
設定年	平成16年(設定)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	原生的なブナ天然林のほか、柵峰には、気候的極相として分布限界(西端)のオオシラビソ林が分布している。ブナ林は、急峻地形に相応してリョウブ、タムシバなどを伴う退化型を示している。柵峰のオオシラビソ林は、吾妻山とは異なり、ヒノキアスナロやコメツガの混成を欠く疎生型タイプである。このほかに、キタゴヨウ・ネズコ、ヒメヤシャブシ・タニウツギ、チシマザサ群落等が展開する。 このような多様な植物群落を一体のものとして保存することを目的とする。 なお、本保護林は柵峰・飯森山植物群落保護林から再編されたものである。



保護林内の状況



ブナの大径木

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none">・主要樹種のブナは大径木の割合が高く、胸高直径95cm程度の個体が倒伏するなど、成熟段階から老齢段階へと推移していると考えられる。・林内ではブナの稚樹や実生が確認された。・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

浅俣ヒメコマツ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(東置賜郡川西町)
面積	8.22ha
設定年	昭和41年(設定)、平成2年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	低山(標高360~470m)に群生している貴重な天然生のヒメコマツの林分であり、この保存と学術研究に資することを目的とする。 なお、本保護林は学術参考保護林から植物群落保護林に再編された後、希少個体群保護林に再編されたものである。



保護林内の状況



保護対象樹種の実生

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(森林生態系多様性基礎調査結果を襲用:樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保護対象樹種のヒメコマツ(キタゴヨウの可能性あり)の生育に大きな変化は確認されず、実生が確認され、生育環境は維持されていた。 ・保護対象樹種はプロット内の全個体が大径木であり、実生は見られるものの、小径木など後継樹の成長は滞っている。 ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

大石沢ブナ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 置賜森林管理署
所在地	山形県(西置賜郡小国町)
面積	7.75ha
設定年	昭和48年(設定)、平成2年(再編)、平成29年(再編)
保護林の概要 (設定目的)	ha当たり550m ³ と高蓄積な二次林であるブナ天然林の保存と学術研究に資することを目的とする。 なお、本保護林は学術参考保護林として設定され、大石沢ブナ植物群落保護林に再編された後、希少個体群保護林として再編されたものである。



保護林内の状況



ブナの幹折れとギャップ

モニタリング調査概要

実施年度	令和7年
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、聞き取り調査
調査手法	森林詳細調査として林内に調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握した。
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナは大径木のみが生育しており、小～中径木は見られないが、林床には実生が生育する。 ・幹折れにより林冠にギャップが生じており、今後ブナの後継樹が育ち、階層構造の発達した老齢段階へ推移すると考えられる。 ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されている。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。